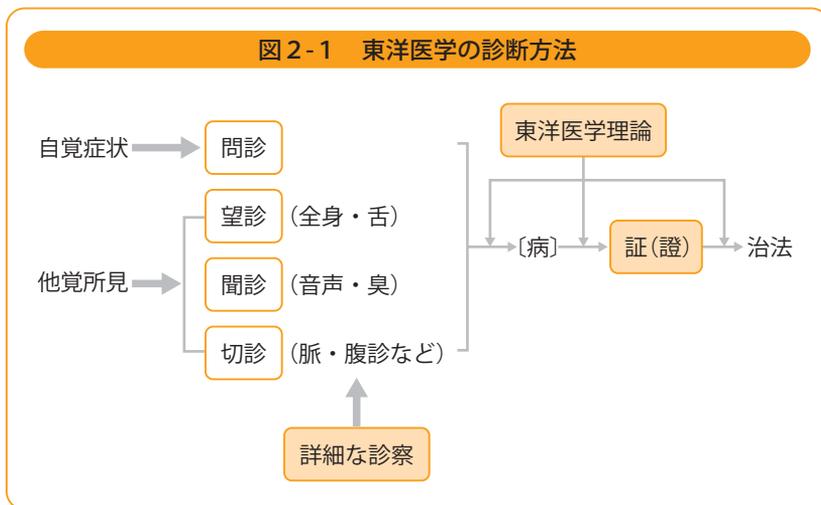


図 2-1 東洋医学の診断方法



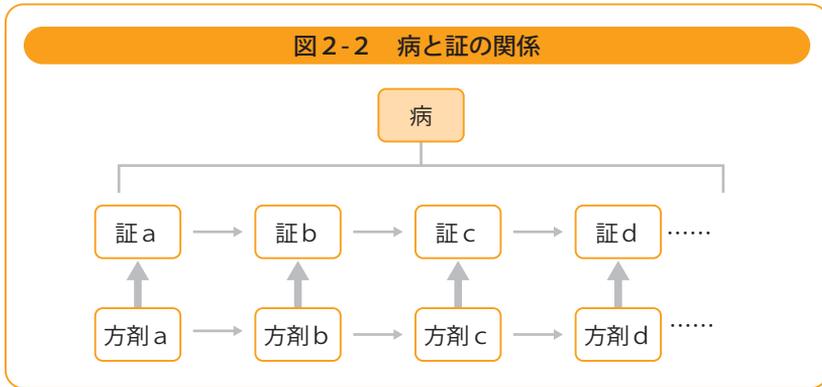
column

伝統的な診察方法

現在の漢方専門医師は西洋医学のやり方にならない、問診から始めることが多いようである。しかし、中国大陸や台湾の留学経験からすると、まず脈診を行い、脈診をしながら問診を行い、最後に舌診を行うという順番で診察することが多い。脈診から始めるのが伝統的な方法だといえる。患者も心得ていて、漢方医の前に座ると訴える前にすぐに手を差し出し脈を診てもらう。中国語では、脈を診ることを診察するの意味で使用するが、これはそうした理由からである。

脈診から始める理由は、脈診は非常に微妙なものであり、訴えの影響を防ぐためではないかと筆者は思っている。たとえばイライラを訴えたとすると、イライラは気滞のために起こることが多く、弦脈になることが多い。これが先入観となり、弦脈と感ずることが多くなってしまふことを防止するというわけである。

西洋医学では、診察室に入ったときから診察が始まるといわれるが、東洋医学でもこれは同じである。



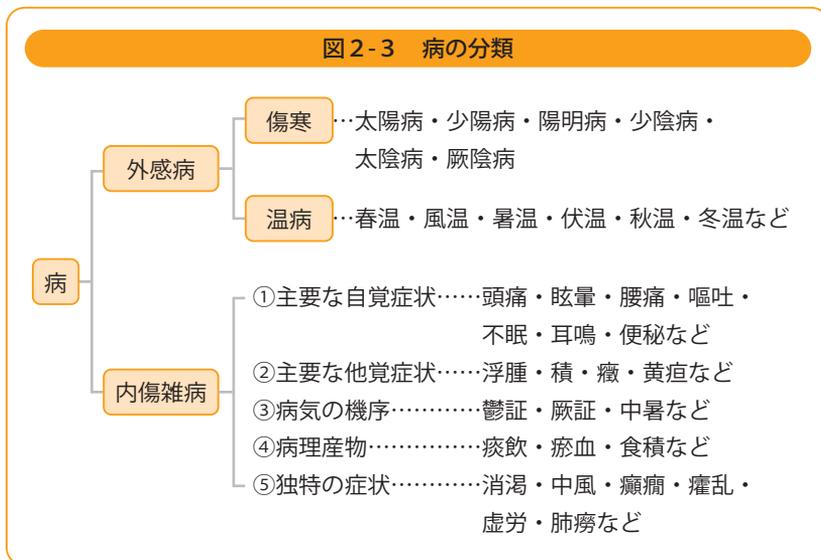
東洋医学の病態には病と証^{びょう しょう}の2つがある。まず病が、ついで証が判断されるが、病は判断されないことも多い。病と証とは、「どのような病気ですか？」という問いに対し、「東洋医学では、こんな病気と考えます」という答えに相当するものである。

治療方法は、この病と証、さらに個々の症状が加味されて決定される。つまり、いろいろな症状を総括して治療が決めるのであり、その結果、ある症状にはたくさんの治療方法が存在することになる。「頭痛に鎮痛剤」といったように単純な方法ではなく、西洋医学に比べより細かい薬物の使い分けが必要となる。四診の具体的な方法と内容は章を改めて述べる。

2 病とはなにか

病とは、ある疾患の大まかな分類であり、西洋医学の病名や症候群に近いものである。たとえば、感冒・眩暈[†]（めまい）・中風（脳血管障害）・消渴[†]（糖尿病など）などであり、その多くは主要症状か、あるいはその疾病の特徴から決められている。後述するように、証が一時期の疾病の姿であるのに対し、病は全過程中変わらない。疾病の最も重要な問題

図 2-3 病の分類



点を表したものであり、治療の最終目的・大目標を示したものともいえる。

西洋医学の病名が病理観察や検査データなどにもとづくのに対し、東洋医学の病は臨床的な症状を詳細に観察することによって名づけられるものである。病とは、歴代の医学書の大分類であり、「〇〇門」などと記載されるものがこの病に相当する。また病は〇〇証と表現されることもある。

医学書によって病の分類は異なるが、大きくはまず発熱性疾患である**外感病**[†]と非発熱性疾患の**内傷雑病**[†]に分けられる。外感病はさらに**傷寒**[†]と**温(瘧)病**に分けられる。周知のように、傷寒はさらに太陽病・陽明病・少陽病・太陰病・少陰病・厥陰病に分けられる。また温病はさらに春温・風温・暑温・伏温・秋温・冬温などに分類される。

内傷雑病は、以下のような基準によって病が命名されている。これらのうち、①と②の主要症状を病とする場合が多い。

① 自覚された主要症状によるもの……頭痛・眩暈・腰痛・嘔吐・不眠・

耳鳴り・便秘など

- ②体に現れた主要症状によるもの……浮腫・積や癥（腫瘍）・黄疸など
- ③病気の機序によるもの……鬱証・厥証・中暑（熱中症）など
- ④病理産物によるもの……痰飲・瘀血・食積など
- ⑤独特の症状によるもの……消渴（糖尿病など）・中風（脳血管障害）・癲癩・癩乱（食中毒など）・虚勞（慢性疲労）・肺癆（肺結核など）など

3 証とはなにか

証^{注1}については成書によってさまざまな説明がされているが、じつはそれほど難しくはない。証とは「はっきりとわかる」ということであり、東洋医学の考え方をを用いて、不明瞭な疾病の状態を明らかにしたものにほかならない。証とは、診察時点の東洋医学的疾患認識であり、東洋医学の病気の姿・実体のことである。

方剤を決めていくためには、この証が基本であり出発点となる。そのため証とは、漢方方剤の適応状態を明確にしたものともいえる。したがって、わが国で使用される「葛根湯証」の証とは、「葛根湯の使用で治療可能な病態」という意味になり、疾患認識の1つの表現であり、証の定義と矛盾するものではない。

証の具体的内容（図 2-4）

では、証の具体的な内容とはなんだろうか。換言すれば、なにが明らかになれば、病気の状態が明確になったといえるのだろうか。ここで、患者やその家族に病気の説明をする場合を考えていただきたい。たとえば肺炎であれば、「あなたの病気は、肺炎球菌の感染が病気の原因で、病気の場所は肺であり、肺が炎症を起こしており、今は病気の極期である」というように説明すれば、病気の姿を説明したことになる。